高尾宮ノ前遺跡現地説明会資料

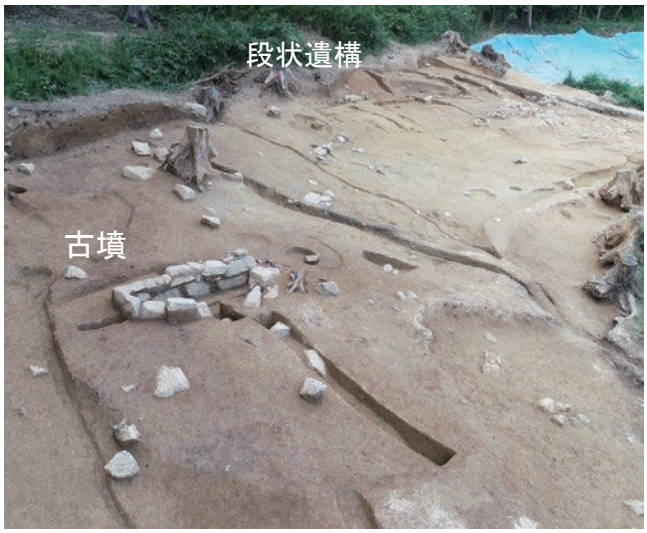
はじめに

岡山県古代吉備文化財センターでは、一般国道 53 号（津山南道路）改築工事に伴い、高尾宮ノ前遺跡の発掘調査を行っています。

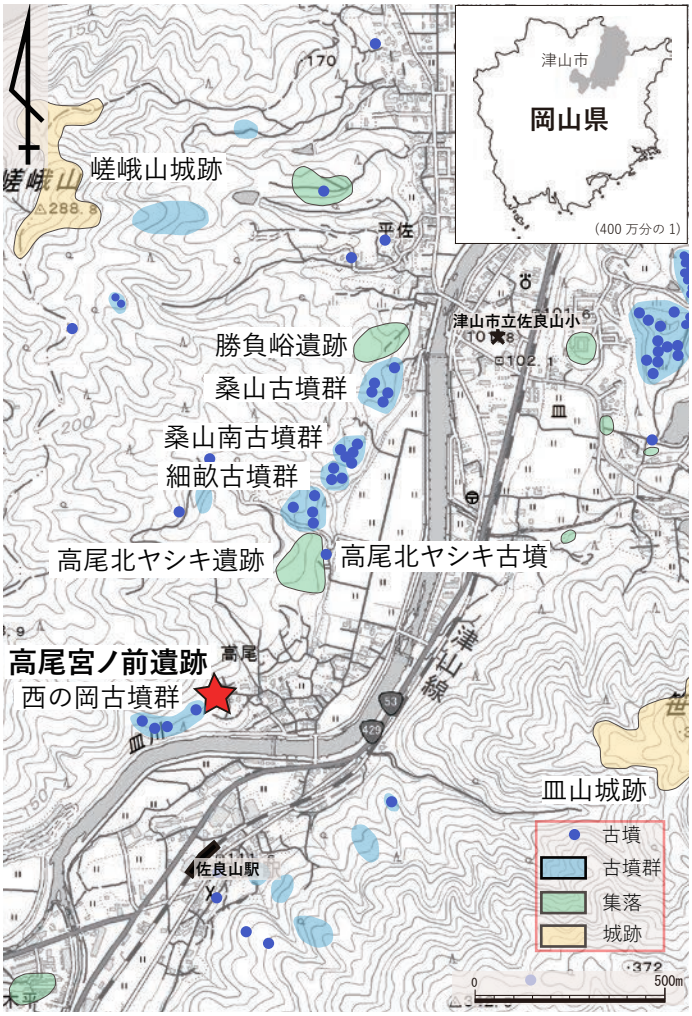
高尾宮ノ前遺跡は、津山市街地の南西に位置する嵯峨山の丘陵南東端に立地しており、吉井川支流の皿川を眼下に望みます。周辺は、古墳時代後期に造られた佐良山古墳群に属する古墳が 200 基近く分布しています。

昨年度までの調査では、縄文時代～室町時代の遺構や遺物がみつかっています。今年度は新たに、古墳時代を中心とした遺構や遺物などを確認しました。

【日時】令和５年９月２３日（土）
〔午前〕10：00 ～　〔午後〕13：00 ～
【場所】津山市高尾　高尾宮ノ前遺跡発掘調査現場
【主催】岡山県古代吉備文化財センター



古墳と段状遺構（南から）



調査地周辺の主な遺跡分布図 (1/20,000)
※国土地理院 1/25,000「津山市西部」を一部改変

今年度の調査成果

今年度の主な調査成果として、６世紀後半の古墳（円墳）を確認することができ、佐良山古墳群に新たな古墳が１基加わったといえます。また、６世紀後半～７世紀初頭と考えられる段状遺構（段状遺構とは斜面を削平し、平坦面を作り出した遺構のこと）も１面確認することができました。

今回の調査地では、丘陵の高い良所に生活に関わる空間である段状遺構があり、それより少し低く丘陵が急傾斜となる変換点に古墳が築かれています。両者の距離は約７m と近く、同時期における小さな生活圏域のなかでのお墓と集落のあり方や関係性を知る上で、貴重な成果であるといえます。

古墳時代	前期	中期	後期	（飛鳥）
西暦	４世紀	５世紀	６世紀	７世紀

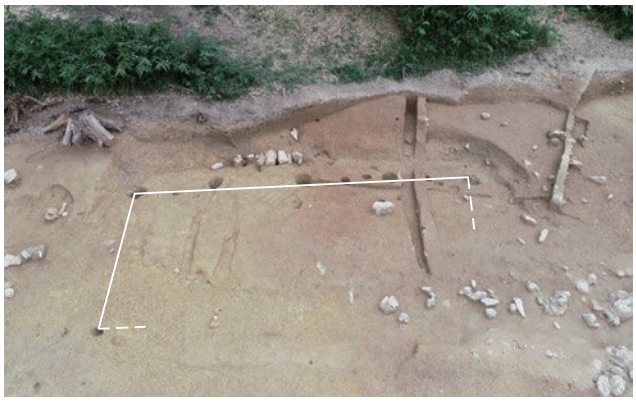
確認した遺構の時期 ⟶ 古墳 / 段状遺構

①段状遺構

時期：古墳時代後期～

遺物：土師器（甕）、須恵器（高杯）

長さが 8.4m、幅が 2 ～ 2.2m です。斜面上部側の柱穴が一列に並び、壁体溝が「コ」の字状にめぐることから、建物と考えられます。



段状遺構（南東から）

甕の出土状況

※壁体溝…壁沿いの床面に掘られる溝のこと。

②古墳

時期：古墳時代後期

遺物：【竪穴式石室】須恵器（杯蓋）、鉄器

【周溝】須恵器（ハソウ）

推定直径が 10m 弱の円墳で、埋葬施設は竪穴式石室です。石室の大きさは、長さが約 188 ㎝、幅約 35 ～ 50 ㎝、残存高は約 30 ～ 50 ㎝です。

また石室の北東側には周溝が弧を描くようにめぐります。

竪穴式石室（南東から）

石室から出土した須恵器（杯蓋）と鉄器

遺構全体図（1/200）

岡山県古代吉備文化財センター

〒701-0136　岡山市北区西花尻 1325-3
TEL 086-293-3211　FAX 086-293-0142
https://www.pref.okayama.jp/site/kodai/